



伸びよう阿曾っ子



11月品格目標：勇気

阿曾地域を学ぶ

阿曾小学校では、総合的な学習の時間に6年生が地域の史跡、5年生が環境について学んでいます。

自分たちが生まれた地域について学習することで、地域について理解するとともに地域に対する愛情を育んだり、地域の課題を解決していこうとする態度を育てたりすることにつながります。

さて、みなさんはご存知でしょうか。阿曾地区は、製鉄がなされた日本最古の場所であり、鉄文化がどこよりも早く伝わった場所だということ。

10月13日(日)「古代ロマンを求めて」というテーマのもと、鬼ノ城たたら倶楽部のみなさんが奥坂にある鬼ノ城たたら場で、はるか昔、このあたりの方々がされていた、たたらづくりをされるということを知り見学に行きました。粘土とレンガで築いた高さ1.2mの炉に木炭と砂鉄を投入し1,300℃の熱で鉄を作り出すという作業でした。この作業は約7時間続き、砂鉄が溶けてできた「ケラ」が約10kg取り出されたそうです。このケラから不純物を取り除いたものは「玉鋼」といわれ、日本刀やナイフ等の材料になるそうです。

作業されていた方々によると、砂鉄や炎の温度等様々な要因がそろわなければ玉鋼をつくりだすことはできず、かなり難しいということでした。温度計などない昔、どのようにして玉鋼を作り出していたのか、阿曾地域の先人たちの優れた知恵や技術にただただ驚かされるとともに、このようなことを阿曾っ子たちにも知ってもらいたいと思った1日でした。

